

を打ち鳴らす。その時、自分の心が穏やかになるのである。

(神戸市、自営業) 日以降、日本軍による

脳を検診の歴史は1990年

代末、破裂脳動脈瘤のスクリーニングによるクモ膜下出血の予防を目的にMRI(磁気共鳴装置画像)による診断が盛んに行われた。同時に無症候性脳梗塞、大脳白質病変・微小出血の診断と脳卒中の撲滅が目的として加わり、最近では社会の高齢化を反映し認知症の精査が増え、脳ドック学会は脳卒中と認知症予防のための医学会となっている。



認知症の原因とされるアミロイドβ(Aβ)タンパクを標的に、新規疾患修飾薬レカネマブは2024年8月現在、全国で3634例、本県でも12症例に使用されている。加療によりアミロイドPET画像や髄液Aβおよび血漿Aβ42/40比の改善

論壇

石内 勝吾

の他に、沈着するもう一つの異常タンパク質タウの蓄積遅延が示されたが、認知機能の悪化が遅延するものの改善は認めない。治療上はアミロイド関連画像異常や薬剤注入に伴う反応には厳格な管理と注意が必要である。認知機能が急速に悪化せず有意な悪化抑制が認められた点

認知症予防とライフスタイル

生活改善すれば健康長寿に

は将来に希望を持たせる。一方、欧州連合(EU)では、新薬認可を判断する欧州医薬品庁(EMA)の評価委員会は「新薬の有効性は脳出血などの副作用リスクを相殺しない」と否定的な見解を出した。

冒頭の未破裂脳動脈瘤に話を戻すと、今年6月に広島で開催された脳ドック学会で北海道オホーツク圏にある北見赤十字病院から興味深い報告があった。2007〜22年に受診した5183例の未破裂脳動脈瘤を対象に07〜17年までは血圧140以下の管理のみ、18〜22年は血圧130以下、かつ禁煙、過度の飲酒を控え1合以下に管理を強化すると破裂率は2.4%から0.85%へ大幅に減少した。クモ膜下出血を来した症例はどれも禁煙と飲酒を抑制できない人たちであった。

また高血圧、糖尿病や高脂血症など生活習慣病を内科的に治療することは動脈瘤の破裂を予防することが判明した。認知症も生活習慣病をきちんと治療すると予防できることが多くの臨床研究論文で指摘されている。要介護原因疾患の第1位と2位は認知症と脳血管疾患であり、主治医の指導に沿った生活改善をすれば健康長寿につながる。14日(土)に沖縄市民会館中ホール、10月5日(土)は県立博物館・美術館講堂で「脳の病気、特に認知症を予防・改善」をテーマに最新のデータを基にお話する。両日とも開場午後1時半、講演会同2〜3時。入場無料。予約の必要はない。ぜひご参加ください。問い合わせ先は琉球大学医学部先端医学研究センターブレイン・ヘルスケア学講座、電話098(895)1843。(琉球大学医学部ブレイン・ヘルスケア学講座教授、65歳)



時間以内に対応してくれたガス屋さんにはさすが、感謝である。ところで、どの家庭

全国卸業者 (那覇・ウフソ)

沖縄県民